

仕 様 書

1 貸付場所及び貸付面積

宮城県美術館（以下「美術館」という。）敷地内に設置を行うこと。

- (1) 屋内 事務室通路付近 1台（幅1,200mm×奥行950mm×高さ1,900mm）

※別紙「自動販売機設置箇所図」のとおり

2 貸付期間

令和6年5月1日から令和8年3月31日まで（更新なし）。

（ただし、美術館のリニューアル工事の進捗状況により、貸付期間を変更する場合がある。）

3 設置する自動販売機の規格及び条件並びに設置場所を借り受ける者（以下「設置者」という。）の遵守事項。

(1) 環境対策

次の①又は②のいずれかを満たすもの。

① 省エネルギー

「照明の自動点滅・減光」、いわゆる「学習省エネ」及び「ピークカット」並びに「真空断熱材やヒートポンプ採用」など消費電力量の低減に資する技術等を導入した機種とする。

② フロン対策

二酸化炭素又は炭化水素を冷媒として採用した機種とする。

ただし、販売品目によって、ノンフロンガス冷媒の自動販売機の調達が困難な場合はこの限りでない。

(2) 安全対策

① 転倒防止

「自動販売機の据付基準」（JIS規格）及び「自動販売機据付基準マニュアル」（日本自動販売機工業会作成）を遵守した措置を講じるものとする。

② 食品衛生

「食品、添加物等の規格基準」（食品衛生法）及び「自動販売機の食品衛生に関する自主的取扱要領」（業界自主基準）等を遵守し、販売商品の衛生管理に万全を尽くすものとする。また、商品販売に必要な営業許可を受けなければならない。

③ 防犯

硬貨選別装置及び紙幣識別装置のプログラム改変により、偽造通貨又は偽造紙幣の使用による犯罪の防止に万全を尽くすものとする。また、屋内設置であっても「自販機堅牢化基準」（日本自動販売機工業会作成）を遵守し、犯罪防止に努めるものとする。

(3) 使用済み容器の回収

① 回収ボックスの設置

原則として1個以上を自動販売機の側に設置する。

② 回収ボックスの規格

ア 素材

プラスチック製又は金属製とする。

イ 容積

回収頻度と回収量を考慮し、回収ボックスから空き缶等の使用済み容器が溢れたり、周囲に散乱しない十分な収容容積とする。

ウ その他

使用済み容器以外の投入を禁止する旨の表示をするほか、使用済み容器投入口は紙等の一般ゴミが入りにくい形状を有するもの又はそのための仕掛けのあるものとし、使用済み容器と一般ゴミの混入防止を図る。

③ 使用済み容器の処理

容器包装リサイクル法(平成7年法律第112号)など、関係法令に基づいて適切に処理する。

(4) 維持管理

- ① 商品の補充、売上金の回収及び釣り銭の補充並びに自動販売機内部・外部、設置場所周辺及び空き缶置き場の清掃などを行うこと。
- ② 消費期限の確認など、安定した高品質の商品を提供するための品質保証活動を行うこと。
- ③ 設置者は、専門技術サービス員による保守業務を随時行って維持に努めるほか、自動販売機には故障時等の連絡先を明記し、故障、問い合わせ及び苦情について即時対応するものとする。

4 販売商品の種類・価格

- (1) 販売品目 別表「自動販売機設置場所及び設置条件等」のとおり。
取扱い商品については清涼飲料水のみとする。
- (2) 販売価格 標準販売価格以下とする。

5 貸付料

貸付料は毎年度徴収するもの。

6 光熱水費等

設置者が自ら設置した計量器（計量法（平成4年法律第51号）に基づく検査に合格したものに限る。）により算定した額を徴収する。

7 売上手数料

徴収しない。

8 費用負担

自動販売機の設置、計量器の設置、維持管理及び撤去に要する費用は設置事業者が負担（設置

に伴う電気工事費も含む。)する。

なお、設置に当たっては美術館の指示に従うものとする。

9 貸付場所の返還

契約の解除等により自動販売機を撤去する場合は、原状に回復して美術館の確認を受けなければならない。

10 自動販売機設置に伴う事故

美術館の責に帰する事由による場合を除き、設置事業者がその責を負う。

11 商品等の盗難及び破損

(1) 美術館の責に帰することが明らかな場合を除き、美術館はその責を負わない。

(2) 設置者は商品及び自動販売機が汚損又は毀損したときは、自らの負担により速やかに復旧しなければならない。

【参考】

1 職員等の数 (R6.3.1 時点)

32人

2 施設情報

当館は現在、リニューアル工事に伴う長期休館中であり、令和7年度中(予定)の再開館を予定している。工事期間中、建物内では上記1の職員等が通常業務を行っているほか、多数の工事施工業者が出入りしている。

なお、このうち工事施工業者は、敷地内(第二駐車場内)の現場事務所に別の自動販売機を設置しており、今回の設置対象となる自動販売機については基本的には使用しない見込み。

(参考)

設置対象箇所自動販売機の売上

なお、この自動販売機は設置場所がバックヤードであり、開館時でも職員のみ利用であったことから、休館中も売上本数は変動しないものと見込まれる。

期間：令和5年1月～12月

本数：930本 (月平均78本)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
本数	45本	56本	79本	80本	76本	131本	94本	152本	87本	54本	47本	29本